

08

越谷レイクタウン

—— 越谷市、埼玉県、日本
1983年～

治水対策と都市開発の一体的実施

Key Issue

対象事例は、人口増加が著しい東京近郊に計画されたニュータウンである。この地域は、昔から水郷として知られ、多くの洪水被害も経験している。このため、新たなニュータウン建設にあたって、開発地区からの雨水排水対策だけでなく、周辺地区の水害対策を同時に解決する手法導入が必要であった。また、開発により外部からの住民が流入することから、都市の設計において水郷地区の風景継承と新たなまちへの住民意識の醸成を意図することが求められた。

Project Approach

洪水被害軽減に資する大規模な遊水機能を都市開発との一体的整備で保全

治水安全度の向上（河川事業）と住宅・宅地の整備（土地区画整理事業）を一体に実施することで大規模な調節池用地の用地捻出を図り、水辺を生かした良好で魅力的な土地利用が可能となった。またUR都市機構が、河川事業と土地区画整理事業の双方を同一施工主体として計画・施工したことで、円滑・効率的に事業を進めることが可能となった。



大規模な人工池を核とした水辺空間と都市空間を融合したうおいのあるまちが形成された。まちの中心部には、新駅とショッピングセンターが配置され、ウォーカビリティの高いまちづくりが実現している。

QOLとコミュニティ醸成に寄与する親水空間を活用

治水対策の調節池は、周囲のオープンスペースも含めて、レクリエーション空間として利用されている。レクリエーションに利用される部分は、市が一体に管理を行うことで、市民活動の利便性を確保している。また、通常時にはオープンスペースへの浸水が進まないよう水位調整が行われており、安全な管理が行われている。UR都市機構は、水辺のまちづくり館などの地域活動拠点の整備を図り、市民・NPO活動を支援している。また水面、水辺空間では、様々なアクティビティが行われ、住民の健康維持活動等に貢献している。



Data

面積	225.6ha
事業主体	UR都市機構
計画戸数	7,000戸
計画人口	22,400人
主な導入施設	新駅、大規模ショッピングセンター、地域活動施設（会議・研修施設、子育てサロン等）、スマートグリッド技術を採用した住宅展示場

To the Next Phase

住民団体、NPO、学校、商業事業者等からなる地域活動の連絡会が発足しているが、従来のURや行政主導型の活動ではなく、財政基盤の充実を図りながら、住民主体の地域活動、イベントの実施が可能となるエリアマネジメント組織への発展を目指している。

